

「JST/CREST 安心安全のための移動体センシング技術」研究成果報告会
「個別適合の技術とサービス」のご案内

東京大学と東京農工大学は、2005年10月～2011年3月の間、JST 戦略的創造研究推進事業 (CREST) 「安心安全のための移動体センシング技術」を受託しています。本年10月に、その成果を活用した新サービスの実証実験を千葉県柏市で実施します。10月16日(土)に東京大学柏キャンパス新領域環境棟において、以下のとおりデモを含む報告会を開催いたします。

つきましては、本報告会の取材を是非お願い致したく、ご案内申し上げます。

なお本報告会は、招待者と報道関係者のみにご参加頂き、一般には公開しておりません。

1. 日時

平成22年10月16日(土)

第1回説明(主に招待者向け): 11:00-12:30

第2回説明(主に報道関係者向け): 12:30-14:30

報道関係者は、なるべく第2回説明にご参加下さい。

2. 場所:

東京大学柏キャンパス新領域環境棟2階講義室(253号室)

(千葉県柏市柏の葉5-1-5)

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam03_01_06_j.html

アクセス:

・つくばエクスプレス線「柏の葉キャンパス駅」西口より

【西柏03, 西柏04】→「東大西」下車(約15分)

※バスは本数が少ないので、ご注意ください)

・タクシー「東大柏キャンパス・環境棟」まで乗車(約5分)

3. 発表者

佐藤知正(東京大学大学院情報理工学系研究科・教授)・研究代表者

永井正夫(東京農工大学大学院工学研究院・教授)

大和裕幸(東京大学大学院新領域創成科学研究科・教授)

保坂寛(東京大学大学院新領域創成科学研究科・教授)

森武俊(東京大学大学院医学系研究科・特任准教授)

大武美保子(東京大学人工物工学研究センター・准教授)

4. 発表概要：

本プロジェクトは、利用者が機械を使う過程で機械が利用者の特徴を理解し、利用者の個性に合わせた動作を行う「個別適合技術」を開発し、新しい安心安全サービスを創出することを目的としています。独居老人の健康異常や自動車の危険運転は、個人のいつもの行動と今の行動を比較することで発見できます。本技術は、利用者の「ふるまい情報」をセンサで計測・蓄積し、普段のふるまいの特徴を抽出し、今のふるまいとの違いを統計的に検出します。

本報告会では、独居老人見守り、危険運転検知、オンデマンドバス自動予約、物流追跡など、本技術を使ったサービスの実際と、各サービスを組合せて可能になる統合サービスのイメージを紹介します。

5. 講演発表（11:00-11:30 および、12:30-13:00）

- 5.1 個別適合技術と統合実験の全体像
- 5.2 オンデマンド交通の外出促進による生活活性化
- 5.3 オンデマンド交通の外出促進による認知症予防
- 5.4 運転行動計測によるスマートカーシェアマネジメント
- 5.5 実計測データ統合の基盤技術

6. 詳細説明，デモ，実物展示（11:30-12:30 および 13:00-14:30）

6.1 オンデマンド交通（用語解説1）

オペレータツール，車載器，リアルタイムレポートツール，Felica カードを用いた予約システム，3D（緯度，経度，時間）履歴表示システム。

6.2 自動車，カーシェアリング（用語解説2），物流

次世代ドライブレコーダ（用語解説3），個別適合ドライブレコーダ搭載カーシェアリング車両（試乗可），PHS 等電位線記録による高精度位置探査，PHS 端末発信電界による紛失物探査，振動による異常検知，オンデマンドバス・カーシェアリング連携ビデオ

6.3 生活

見守り用焦電センサ，異常検知システム

6.4 総括班

共通データベース，共用アルゴリズム，オンデマンド交通による共想法（用語解説4）プログラム参加ビデオ

7. 注意事項：

なし

8. 問い合わせ先：

東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻
教授 保坂寛

9. 用語解説

- (1) オンデマンド交通：決まった時刻に決まった経路を移動する路線バスと異なり、乗客の希望に併せて弾力的に経路を作成する新しい乗り合い交通システム。乗客は携帯電話などで予約して乗車する。
- (2) カーシェアリング：登録した複数の会員が自動車を共同利用するシステム。15分から30分の短時間単位で利用できる。車の利用効率が高まり、環境対策、経費節減、渋滞解消に役立つ。
- (3) ドライブレコーダ：事故時やヒヤリハットのような急な加減速操作が生じた際に、その前後の映像や走行データを記録する装置。本研究のドライブレコーダは、個人の普段の加速・減速時の運転行動を記憶し、普段の運転とは違う危険運転時に警報を出す点に特徴がある。
- (4) 共想法：テーマを決めて、写真などの素材と共に話題を持ち寄り、時間を決めて話し手と聞き手が交互に会話し、想いを共有する手法。聞くことと話すことのバランスの取れた活発な会話を行うことができ、高齢者の認知機能維持向上効果が期待できる。

10. 添付資料：

当日の講演で使用する資料等

http://www.ems.k.u-tokyo.ac.jp/CREST_press.pdf

